

平成29年度第5回理事会議事録

1. 日時：平成30年2月17日（土） 13:30～17:10

2. 場所：フォーラム8（渋谷）5階 511会議室

3. 出席者：

理事：総数27名中 松丸喜一郎会長 藤井優副会長 田村恒彦副会長兼専務理事

岸高清常務理事 袴田登喜造常務理事 溝部政司常務理事

大野明敏常務理事 永谷喜一郎理事 横山幸子常務理事

香西俊輔理事 井上康理事 生島賀寿也理事 平井宏冶理事 田中敏夫理事

木場良平理事 三木容子理事 佐橋朋木理事 藤井彌理事 源洋子理事

成山悟史理事 寺澤良悦理事 田中僚一郎理事 高橋信吾理事 田中辰美理事

以上出席24名

監事：総数2名中 石崎和男 阿部栄一郎以上出席2名

田村専務が13時30分に理事24名出席で成立するとの宣言をした。

4. 議事録署名人：松丸喜一郎、藤井優、田村恒彦、石崎和男、阿部栄一郎

5. 松丸会長挨拶

松丸会長が、いまピョンチャン五輪で長野の10個を越えるメダル数にせまりつつありますが、日本国内におけるスポーツの価値の向上、国民の支援の気持ちが選手達のモチベーションになっており、選手もインタビューでそれに報いるように語っていると思います。われわれも東京五輪の成果を残せるよう頑張ってまいりたいと存じます。本日の審議もよろしくお願ひします、とあいさつした。

<審議事項>

1. H30年度収支予算(案)について

田村専務理事より資料1-1、2-2のとおり説明があった。

議長が諮ったところ全員異議なく、資料1-1、同2-2のとおり平成30年度予算案を承認した。

2. H30年度事業計画(案)について

田村専務理事より資料2-1のとおり活動方針について説明があった。佐橋競技企画部会長より資料2-2および別添資料1-改のとおり各大会計画について説明があった。

その中で佐橋部会長よりヤングスターランクリストオータム大会の日程を10月13、14日に変更する、また全日本小中学生チーム大会の日程7月28、29日とあるものを8月9、10日に訂正するとの補足説明があった。

大野国体副委員長より9月の日本スポーツマスターズ2018札幌大会について北海道ラより射場の関係で開催不可能との書面での申し出があったので、開催難しいということになったとの説明があった。さらに高橋理事より1月5、6日のランクリストが、正月明けでどうなのかと意見があったが、佐橋理事より翌週はヤングスターもあり、難しいとの回答があった。

神原参事が発言を求め議長がこれを認め、5月の春季チームピストル大会の会期が5月21日からとあるのは19日の間違いであろうと指摘があり、佐橋部会長が19日に訂正した。

その後議長が諮ったところ全員異議なく、資料2-1に加え上記の訂正も含め平成30年度事業計画案を承認した。

3. 拠点射撃場補助について

岸高事務局長より資料3のとおり説明があり、特に質疑はなく、議長が諮ったところ全員異

議なく、広島と能勢の2件の補助について資料3のとおり承認した。

4. H30 ナショナル選手選考基準及び海外派遣要綱について

田村選強委員長より資料4および追加資料「ナショナルチーム選手強化のための備品および消耗品助成規程案」のとおり説明があった。香西理事より全日本のミックスの点はどうするのかと質問があり、田村委員長よりミックス点をこの要綱で扱うのではなく個人種目が出てきた選手から組合せをする、と説明した。

その後議長が諮ったところ全員異議なく、平成30年度のナショナルチーム選手選考基準及び海外派遣要綱について資料4のとおり、ナショナルチーム選手強化のための備品および消耗品助成規程案について追加資料のとおり承認した。

5. H30 年度ジュニア育成アスリート指定基準海外派遣要綱について

大野ジュニア育成委員長より資料5のとおり説明があった。その中でp23 ライフルの第74回国体リハーサル、同じくp24 ピストルの国体リハーサルはいずれもジュニア種目の実施がないので対象から外れるとの訂正があった。特に質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議なく、資料5のとおり平成30年度ジュニア育成アスリート指定基準および海外派遣要綱を承認した。

6. ナショナルチーム選手、ジュニア育成選手および日本代表選手等の行動規範について

田村委員長より資料15のとおり説明があった。永谷常務より飲酒は禁止しないのか、との質問があったこれに対し、香西理事より最高の得点を出すために選手強化委員会にすべてまかせるべきで原案どおりで良いとの意見があった。議長が諮ったところ全員異議なく、資料15のとおり行動規範について承認した。

7. スロベニア・ルシェ国際エアガン大会派遣について

田村委員長より事後承認になったがとのことわりがあり、資料6のとおり説明があった。特に質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議なく、資料6のとおりスロベニア国際エアガン大会派遣について承認した。

8. 2018ISSF ルール変更にもなう国内ルール変更について

溝部競技運営委員長より資料7のとおり説明があった。その中で溝部委員長から小学生大会の弾数については40発のままとすることについて皆さんのご意見を伺いたいとの発言があった。藤井彌理事より弾数については国際的な例からも40発に少なくすることも可だと思ふとの意見、藤井優副会長よりフランスの小学生は30発でやっているとの意見をふまえ、議長が資料7に加え小学生は40発とするとの案も含め議長が諮ったところ全員異議なく、ISSF ルール変更にもなう国内ルール変更について承認した。

9. H30 年度協会主催大会のファイナル実施、参加資格段級、ミックス編成について

溝部競技運営委員長より資料8のとおり説明があった。

大野常務より全日のAP参加資格について5段しよりは少しきついのではないかと意見があった。溝部委員長より現行と同様に5段を大会で受けてもらえれば参加よしとの対応をしたい、と回答した。成山理事より段級ではなくNTランキングを中心とする参加資格しよりはできないか、との質問があり、溝部委員長が段をドンドンとってもらうことも日ラの収入面を考えて好ましいので段でのしほりしたいと答えた。議長が資料8の2項の全日本、全日本選抜の参加資格については、協会ランキングで足切りをし、ただし出場するジュニア以外の選手

は5段まで、ジュニア選手は4段まで受験することを必須とするとの修正案で改めてはかり、この全日本、全日本選抜の参加資格については全員異議なく議長の修正案どおり承認した。

さらに、資料8の3. ミックスチームについて、三木理事より各団体のチーム数制限や所属を超えて組めるチームの上限を設けずに始めるのが良いとの意見を述べた。議長がこの平成30年度全日本のミックスチームの参加ルールについては、所属単位などの制限は設けずにフリーで行うとの修正案を述べ、これについて諮ったところ全員異議なく、議長の修正案どおり、全日本のミックスチームの参加はフリーのエントリー方式で行うことを承認した。

10. 競技記録公認規程改訂について

溝部競技運営委員長より資料9のとおり説明があった。

香西理事より例えばラピッドファイアは英語では一単語なので間に「・」を入れないとか、今組織委員会内で競技用語の日本語表記の統一表を検討しているが、五輪での用語とこの日本語の規則集の用語の統一を協力してやっていきたいとの発言があった。

溝部委員長より、本年度中に女子の60発競技化も実施することもあり、この規程の成立は34ページの資料9附則の20のとおり平成30年4月1日施行ではなく、平成30年2月17日施行としたいとの説明があった。この施行日変更も含め議長が諮ったところ全員異議なく、競技記録公認規程改訂について承認した。また規程の別表等の競技名などの名称表記については今後調整があることも併せて承認した。

11. 段級審査規程改訂について

溝部競技運営委員長より資料10のとおり説明があった。その中で溝部委員長より資料54ページの付表9についてはすべて削除するとの補足説明があった。

特に質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議なく、付表9の削除も含め段級審査規程改訂について承認した。また規程の別表等の競技名などの名称表記については今後調整があることも併せて承認した。

12. 小学生向けレベルアップ認定バッジ授与について

溝部競技運営委員長より資料23のとおり説明があった。三木理事より中学生も対象にしてほしい。との意見があり、溝部委員長が同意した。さらに溝部委員長よりバッジ名称も「ヤングスターレベルアップバッジ」としたいとの追加説明もあった。議長が諮ったところ全員異議なく、中学生も対象として名称をヤングスターレベルアップバッジとすることも含め資料23のとおり小学生レベルアップ認定バッジ授与について承認した。

13. 競技会格付けの昇格について

溝部競技運営委員長より資料11のとおり説明があった。質疑の中で袴田学連会長より関東支部主管大会のうちTD配置やファイナル実施について基準を満たす運営をする大会について事前申請なしでG3+扱いとしていただきたいとの趣旨だとの説明があった。議長が諮ったところ全員異議なく、クラブ対抗選抜のG2化、学連関東支部が主管するTD配置あり、ファイナルありの大会についてG3+とすることについて承認した。

14. 公認審判員について

溝部競技運営委員長より資料12-改1のとおり名誉審判の推薦および本部公認審判の推薦について説明があった。特に質疑はなく、11名の名誉審判および4名の本部公認審判について議長が諮ったところ全員異議なく承認した。

名誉審判の本部公認資格登録料の免除運用については、石崎監事より名誉称号をつける範囲

について適正かどうか見直してはどうかとの発言があり、袴田常務から、具体的な公認審判数とそのうちの名誉審判の数や今後の動向を具体的に見て議論する必要があるとの発言があった。議長が、これらの発言をうけて、担当委員会で検討させることとしたいと発言した。

15. ジュリー名簿更新について

溝部競技運営委員長より資料 13 のとおり説明があった。特に質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議なく、59名のジュリー名簿の更新について承認した。

16. 銃器の公認について

香西認定部会長資料 16 のとおり説明があった。特に質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議なく、ブライカーチャレンジャーⅡとパルディーニK12について承認した。

17. 記録の公認について

源 記録部会長資料 14 のとおり説明があった。特に質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議なく、15件の日本記録について承認した。

<報告事項>

1. 委員会報告：

1) 推薦委員会報告

・ 1月推薦委員会審査結果について

袴田推薦委員長より資料 17 のとおり説明があり、1月の推薦委員会の審査結果について報告があった。

2) 国体委員会報告

大野国体副委員長より、本日午前中の国体委員会での議事について報告があった。その中で、ミックスを入れる前提で茨城からの女子の60発化を検討中であると報告した。

日本マスターズの札幌開催は射場で使える射座数が不足することもあり断念した。平成31年度の同大会開催地については岐阜なので、マスターズ連合で今後調整する。また、ミックスの導入に伴う国体種目調整については次回提案したいとの報告があった。

3) 選手強化委員会

・ 国際エアガン大会（スロベニア・ルシエ）結果報告

田村選手強化委員長より資料 18 のとおり結果報告があった。

・ 国際エアガン大会（H&N・ミュンヘン）結果報告

田村選手強化委員長より資料 19 のとおり結果報告があった。

4) 競技運営委員会

・ 種目略称、日本記録標記について

溝部競技運営委員長より資料 20 のとおりジュニア標記は性別の後ろにする件、ミックスチームの略称はARMIX、APMIXにする件、日本記録はファイナル点数としてNRと標記する、本選日本記録はQNRとする、日本タイはENR、本選日本タイはEQRとする件について報告があった。なお、溝部委員長よりISSFの2018年からの種目略称の大幅変更については上記の変更を除き混乱を避けるために国内では平成31年度から改訂する方向としたいとの説明があった。

・ 射撃場変更の報告について（三重50M）

香西認定部会長より資料 21 のとおり三重県営ライフル射撃場 50m射場の電子標的
への変更について報告があった。

5) 普及・生涯スポーツ委員会

・ NRA J 認定コーチ制度改訂検討について

成山指導者育成部会長より、資料 22 のとおり JOC のインテグリティ教育導入や日
体協の新公認指導者制度の方向と合致させるべく、NRA J 認定コーチ制度の見直しを
し、次回理事会に提案できるようにしたいとの報告があった。

2. 会務報告

・ 国体成績表の日本記録名称について

袴田常務理事より、日ラホームページの愛媛国体成績表中の日本記録名称標記につい
て本選の文字の使い方などについてチェック整理が必要との意見があった。

・ 段級申請書類の宛先について

袴田常務理事より、段級審査受験登録申請の宛先が、段級部会あて、日ラ会長あて、
本部公認審判の申請は部会長あて、地方公認審判は会長あてなどで統一してほしいとの
発言があった。

17時10分議長が閉会を宣言した。

平成30年3月9日

議事録署名人

議長、代表理事（会長）松丸喜一郎

松丸喜一郎 印

代表理事 藤井優

藤井優 印

代表理事 田村恒彦

田村恒彦 印

監事 石崎和男

石崎和男 印

監事 阿部栄一郎

阿部栄一郎 印

